

3D技術・高画質技術特集によせて



パナソニック（株）代表取締役専務
AVCネットワークス社 社長 森田 研

AVCネットワークス社では、『enrich』、『easy』、『emotive』、『ecology』という4つの「e」で広げる新たなライフスタイルの創造を目指して「4e LIFE Creation」というスローガンを掲げています。これらのお客様の価値を追求することによって、世界のデジタルAV業界を牽引（けんいん）する会社であり続けたいと考えています。中でも高画質の3D商品群は、お客様に未体験の臨場感と感動をお届けできる商品群であり、当社の成長戦略において重要な事業分野です。

日本では、1953年にTV放送が始まって60年近くがたとうとしています。その時代その時代のお客様に新たな価値を提供して来たTVは、デジタル放送の普及と平行して薄型化と大画面化が進行し、ブラウン管から薄型ディスプレイを用いた薄型TVへと進化しました。当社では、PDPとLCDの高画質化、低消費電力化の技術開発で業界をリードするとともに薄型TVへのシフトを先導してきました。

この間、グローバルにTV市場は拡大し、2001年当時4兆円だった市場は、2010年には12兆円もの巨大市場へと成長しています。また、TVの高画質化に牽引されて、レコーダー、プレーヤー、DSC（Digital Still Camera）、ムービーの高画質化も進んでいます。そして2010年、これらデジタルAVの製品群は3Dという新たなステージへと進化しました。

当社は、世界初^(注1)のFull HD 3D TVとBlu-ray DiscTM(注) Playerを発売して以来、業務用では3Dカメラレコーダー、編集機、モニターを、民生用では3D対応ムービーやDSCの3D交換レンズを、業界に先駆け発売しました。

当社は、家庭用TVにおいて、高解像度・高視野角を可能とするフレームシーケンシャル方式3Dを採用し、安全ガイドライン^(注2)に沿った「眼に優しい」3Dを実現しています。また、PDPの本来の強みである動画性能の良さを生かし、さらに新短残光材料や新発光制御方式を開発することにより、2重像（クロストーク）の少ない高画質フルHD（High Definition）の3D映像を実現しています。これは単に3D表示のみならず2D表示においても更に一歩進んだ高画質化を達成しています。

業務用3Dカメラレコーダー、3D対応ムービーやDSC

では長年培った光学技術や撮像技術によって、コンパクトで高精度な3D撮像系を実現し、左右2つの映像のずれが少なく「眼に優しい」3D撮影を可能にしています。

加えて、3D事業の拡大には機器のみならず3Dコンテンツも不可欠です。当社は、3D映像の撮影環境、コンテンツ制作を含む End to End のソリューション事業を広げ、高品位で快適な3Dワールドをお客様に提供してまいります。世界的にもBlu-ray 3DTM(注)の映画タイトルが発売され、また限定的ですが、3D放送も開始されつつあります。さらに、これら3Dコンテンツを拡充するために、3D制作環境の充実、制作者の教育などの業界支援活動にも注力しています。

3Dでは従来の2Dとは異なり、例えば野球では、球場のスケール感と共に、ピッチャーの投げる球種がわかりやすいなど、実際にその場で見ているかのような臨場感を味わうことができます。また、ファッションショーではモデルの表情が生き生きと見え、ドレスの生地の質感が感じられるなど、これまで以上に豊かな映像表現を体感することが可能となります。これら3D映像視聴に最適な大画面、高画質のTVを核に3D商品群を更に進化させていきます。

また、当社では、152V型の4K2Kプラズマディスプレイも商品化しています。今後、蛍光材料や発光方式の改善に伴い、より小さな画面サイズでも4K2Kなどの高精細化が進み、3Dに加えて、さらにリアリティや臨場感を提供できると考えています。このように、高画質化技術はまだ進化を続けていきます。

今回の特集では、「Full HD 3DプラズマTV」、「Full HD 3D対応3D Blu-ray Disc Player/Recorder」、「業務用一体型二眼式3Dカメラレコーダー」などを支える、当社研究開発成果をご紹介させていただきました。3Dおよび高画質商品群が提供する臨場感をご理解いただければ幸いです。

(注) Blu-ray Disc, Blu-ray 3D は、ブルーレイディスクアソシエーションの商標

(注1) 2010年3月10日 米国にて発売開始

(注2) 2010年4月にJEITAなどから公表された「3D安全ガイドライン」